令和６年度　自己評価計画書

石川県立羽咋高等学校

重点目標		具体的取り組み		主担当	現　　状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備　考
1	確かな学力と個別最適な学びの推進 ICT機器の活用や授業形態の工夫、観点別評価等の活用により、生徒が主語の授業への改善を図る。	①	・観点別評価を活用した授業改善 ・生徒の主体的な活動を促す発問の工夫 ・学習到達度に応じた習熟度別指導の充実 ・ICTを活用した学習支援の充実	教務課	１人１台端末を活用した授業は日常的に行われているが、知識習得や問題演習を中心とした授業が多く、生徒が主体的に深く学ぼうとする場面は決して多くはない。	【満足度指標】 生徒が主体性をもって取り組めていると感じる授業が行われている。	「授業では、主体的に取り組もうと思える問いかけや課題が提示されている」という項目に、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が、 A　70%以上 B　60%以上 C　50%以上 D　50%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年２回の授業評価アンケートで評価する。
		②	・日々の学習を自らの将来と結び付けて考えさせることを通してキャリア意識を育てる。 ・添削等の個別指導と、補習や学習会等の全体指導を組織的、計画的に行う。 ・生徒一人ひとりの希望進路やニーズに応じられる指導体制を構築する。	進路指導課	令和６年度入試国公立大学合格者は ア：難関１０大学・国公立医学科合格者 ６名 イ：金沢大学合格者 １９名 ウ：国公立大学合格者 合計７５名 である。	【成果指標】 生徒が高い進路目標を達成している。	ア：難関１０大学・国公立医学科合格者３名以上 イ: 金沢大学合格者１５名以上 ウ: 国公立大学合格者８０名以上 上記ア～ウのうち達成した項目が A　３項目 B　２項目 C　１項目 D　なし	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に評価する。
		③	・学習支援アプリを活用した生徒自身による生活管理の推進 ・学習支援アプリを活用した生活実態の把握と個々の生徒へのフィードバック ・個別面談を通した現状と課題の把握	進路指導課	１、２年生ともに平日の家庭学習３時間以上の割合は決して高くはない。多くの生徒が学習を中心とした生活リズムをうまく構築できていない実態が窺える。	【成果指標】 １・２年生で平日の家庭学習時間を３時間以上行っている生徒の割合が高まっている。	１・２年生それぞれで、平日の家庭学習時間３時間以上達成者の割合が、 A　50%以上 B　40%以上 C　30%以上 D　30%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年５回のアンケート調査及び日々の学習時間調査で判断する。
2	豊かな心の涵養 生徒が主体的に運営する生徒会活動や部活動等を創出するなど、さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。	①	・生徒による行事運営の推進 ・部長会議の定期開催 ・各委員会委員長会議の活性化	生徒課	多くの生徒は学校行事や部活動にまじめに参加しているが、主体的に取り組む場面は少なく、達成感や自尊感情の高揚につながっていない。	【満足度指標】 生徒が達成感や自尊感情を高めることができたと感じている。	生徒会活動や部活動が主体的に取り組める場となっており、達成感や自尊感情が高められたと感じる生徒の割合が、 A　80%以上 B　65%以上 C　50%以上 D　50%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年２回の学校評価アンケートと羽高祭後にアンケートをとる。
		②	・行事ごとの振り返り活動	総務課	生徒は学校行事に参加してはいるが、主体的に取り組み、その体験活動を振り返ることによって、公徳心の向上、人間愛を培うことに至っている生徒は少ない。	【成果指標】 教員が各行事後に振り返り指導を実践している。	学校評価アンケートにおいて、行事後の振り返り指導を生徒に対して実践している教員の割合が、 A　80%以上 B　75%以上 C　50%以上 D　50%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年２回の学校評価アンケートで現状を把握する。
		③	・学習支援アプリの機能を活用した日常的な観察 ・スマホ・携帯の使用方法についての継続的な全体指導 ・いじめアンケートの実施	生徒課	昨年度は生徒間で大きなトラブルはなかったが、SNSでの書き込みがわずかにあった。学校全体として日常的な観察と継続的な指導を行っていく必要がある。	【成果指標】 教員がネットトラブルやいじめ問題について防止・対応・解決について理解し、学校全体で未然防止に努めている。	学校評価アンケートにおいて、ネットトラブルやいじめ問題の予防・対応・解決に向け、常に心掛け実践している教員の割合が、 A　95%以上 B　85%以上 C　75%以上 D　75%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年２回の学校評価アンケートで現状を把握する。
3	課題発見力・解決力の育成 DXハイスクール指定校・STEAM教育指定校として、DX探究未来塾（総合的な探究の時間等）での活動を通して、地域社会の問題解決や改善に取り組む。	①	・プロジェクト型授業（PBL）の実施 ・教科横断的授業の実施 ・データサイエンス講座の実施 ・豊富な発表機会の設定	探究課	昨年までの探究未来塾では、限定的な取組にとどまっていたが、より大きな枠組みで、データサイエンスや教科横断的な視点も踏まえた探究活動に進化させる必要がある。	【満足度指標】 生徒が自ら課題を設定し、解決に向けて主体的に取り組み、自分の考えや意見を述べることができる。	総合的な探究の時間（自己評価シート）のルーブリックにおいて、探究前のレベル平均より探究後のレベル平均が上昇している生徒の割合が A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年３回の自己評価アンケートで評価する。
4	教職員の多忙化改善 学年・分掌業務の平準化や業務の精選により時間外勤務の削減を図る。	①	・教員の業務の適切な配分 ・業務の重複や無駄の削減 ・ICTを活用した教員間での情報共有や連携の強化	教頭	令和５年度の月平均の時間外勤務時間は38.9時間であり、一昨年度（44.1時間）、昨年度（40.4時間）から減少傾向が見られる。	【成果指標】 教職員全員が多忙化改善に向けた取組を実施し、時間外勤務時間を減らす。	教員の時間外勤務時間調査において、月平均の時間外勤務時間が A　35時間以下 B　35～40時間 C　40～45時間 D　45時間超	C、Dの場合、改善策を検討する。	職員の勤務時間調査で判断する。